

令和4年度

運営に関する計画

中間評価

大阪市立北中道小学校

大阪市立北中道小学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校は「明るく仲よく正しく生きる子、心身ともに健康でねばり強くがんばる子、自ら学ぶ意欲や思考力、判断力、表現力をもち、個性と創造力豊かな子」という教育目標のもとに、令和3年度からめざす子ども像を「仲間と認め合い自らよりよく学ぶ子ども」とし、安全・安心な教育の推進と未来を切り拓く学力・体力の向上、学びを支える教育環境の充実をめざし、多様な教育活動を推進している。

安心・安全な教育の推進については、道徳性・社会性の育成に努めてきた。そこでは、多文化共生教育や特別活動に重点を置き人権を尊重する教育に取り組んだ。民族学級や国際理解教育の推進、異学年交流の推進、防災訓練など地域と連携した教育活動の工夫など進めて、互いのよさと違いを認め尊重し合う態度の育成を図った。その結果、「友だちを大切に、助け合っている」では、校内アンケートにおいて令和3年度末は90%以上の児童が肯定的回答をした。今後も、友だちを大切に、助け合える子どもを育成していくことに重点を置きたい。また、「自分にはよいところがある」では、校内アンケートにおいて令和3年度末は80%の児童が肯定的な回答をしている。今後も継続して自己肯定感の向上を図ることが課題である。

また、学力・体力の向上については、学習指導の充実と健康・体力の保持増進についての指導に努めてきた。ここでは、子どもの主体性を重視した学習指導と保健指導に取り組んだ。体育を中心とした教科指導の実践的な研究、自学自習できる環境整備、手洗い・うがいなど健康的な生活習慣の確立などを進めて、自ら学ぶ力と健康な心身の育成を図った。その結果、令和3年度末児童アンケートでは「授業に集中して取り組み、分からないところは先生に質問するなどしてそのままにしない」についての肯定的な回答の割合が、全校平均84%あった。今後も、自ら学ぶ力を育成していく必要がある。また、「運動やスポーツをすることが好きですか」についての肯定的な回答が、令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査では大阪市平均を男女とも下回った。今後も運動への関心を高める続けることは課題である。

そして、学びを支える教育環境の充実については、ICT機器活用の推進に努めるとともに、会議や学校行事の精選を進めてきた。そこでは、児童が主体的にタブレット端末を活用できるよう取り組むとともに、教職員の負担軽減を図った。その結果、令和3年度末児童アンケートでは「進んでタブレットを使った学習に取り組んでいる」についての肯定的な回答の割合が、全校平均91%あった。今後も、主体的にタブレット端末を活用する環境づくりを進める必要がある。また、会議や行事の精選により、教職員の時間外勤務時間は縮減されてきてはいるが、課題を残している。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度の全国学力・学習状況調査の「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。
- 令和7年度の全国学力・学習状況調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、令和3年度より5%増加させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度の小学校学力経年調査・校内調査の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を、35%以上にする。
- 令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点の対全国比の割合を、令和3年度より5ポイント向上させる。 ※全国平均を1とした時の割合

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度の全国学力・学習状況調査の「5年生のときに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を、100%にする。
- ゆとりの日については、週1回以上設定する。学校閉庁日については、夏季休業期間中は3日以上、夏季休業期間以外の休業期間においては1日以上設定する。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標

- ① 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を84%以上にする。
- ② 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- ③ 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

学校の年度目標

- ① 令和4年度末学校アンケート（児童対象）で「自分にはよいところがある」の項目の肯定的な回答の割合を80%以上にする。
- ② 令和4年度の小学校学力経年調査・校内調査の「学校のきまり（規則）を守っていますか」の項目について、肯定的に回答する児童生徒の割合を、90%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標

- ① 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を30%以上にする。
- ② 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より3ポイント向上させる。
- ③ 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を72%以上にする。
- ④ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を50%以上にする。

学校の年度目標

- ① 令和4年度末学校アンケート（児童対象）で「学習中に、自分もやればできると感じることがある」の項目で肯定的な回答の割合を80%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標

- ① 令和4年度末の校内調査の「日々の学校活動の中で学習者用端末を活用している」の項目について、肯定的に答える児童の割合を90%以上にする。
- ② ゆとりの日の設定を、月2回以上設定する。

3 本年度の自己評価結果の総括

大阪市立北中道小学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>全市共通目標（小学校）</p> <p>① 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を84%以上にする。</p> <p>② 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。</p> <p>③ 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。</p> <p>学校の年度目標</p> <p>① 令和4年度末学校アンケート（児童対象）で「自分にはよいところがある」の項目の肯定的な回答の割合を80%以上にする。</p> <p>② 令和4年度の小学校学力経年調査・校内調査の「学校のきまり（規則）を守っていますか」の項目について、肯定的に回答する児童生徒の割合を、90%以上にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>不登校、いじめの対応を組織的に行えるようにする。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学期ごとのいじめアンケートについて「今のクラスになっていじめられている。」に「はい」と答えた児童への解消率を80%以上にする。 ・不登校とみられる児童への対応について学校全体だけでなく、関係諸機関と連携を取りつつ対応した割合を80%以上にする。 	B
<p>取組内容②【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>学校・保護者・地域が連携して「仲間づくり」を中心にした国際理解教育や人権教育を推進する。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際理解教育、人権教育の年間指導計画を作成し、保護者・地域と連携した教育活動を実践する。学校アンケート（児童対象）における「話し合う活動では、自分の考えを友だちに伝えることができる。」と「いろいろな国の生活や文化を知ることが楽しい。」の項目について肯定的な回答をした児童の割合を80%以上にする。 	B
<p>取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>にじいろ班活動やにじいろ行事を通して異学年交流を深め、子どもの心を豊かにする。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集会や、にじいろ清掃、にじいろ行事を実施し、学校アンケート（児童対象）における「ちがう学年（にじいろ班）の人たちと活動することが楽しい。」の項目について肯定的な回答をした児童の割合を80%以上にする。 	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①

- ・生活指導部を中心に、児童の実態を把握し、児童理解の会や生活指導部会を通じて情報を全体で共有することができている。また、部会で上がった内容をまとめたファイルを情報共有の場に参加することができなかった教員には確認を促し、共通理解を図っている。しかし、各項目における達成目標（％）は複数回のアンケートを実施していないため、現状明確に表すことが難しい。

取組内容②

- ・国際理解教育や人権教育の年間指導計画に沿って実践を進めている。学校アンケート（児童対象）における「話し合う活動では、自分の考えを友だちに伝えることができる。」と答えた割合は 84.6%と目標の数値を上回る結果となった。しかし、「いろいろな国の生活や文化を知ることが楽しい。」の項目については 79.3%と目標を達成することができなかったものの、80%に近い数値となった。月ごとに朝会で世界のあいさつをしたり、国際理解の学習でとりあげる国を増やしたりすることで、興味を持つ児童が増えつつある。

取組内容③

- ・学校アンケート（児童対象）「ちがう学年（にじいろ班）の人たちと活動することが楽しい。」の肯定的な回答は 82.0%と目標値に達することができた。昨年度取り組むことができなかったにじいろドッジボールやにじいろ清掃を、今年度は1学期中に実施することができた。

最終評価までの改善点

取組内容①

- ・指導が入りにくい児童に対しては、職員全体で声をかけて、児童一人ひとりに寄り添い学校全体で見守っていくことをこれからも継続していく。
- ・不登校児童については、外部機関と連携する機会を多くとりいれて行く必要があり、相談しながらアプローチしていく。

取組内容②

- ・「外国の～」の肯定的回答を増加させるために、外国の生活・文化の資料を再確認して紹介したり、朝の会の時間やモジュールの時間を活用し、話題になっている国を紹介したりするなどルーツのある国だけではなく、様々な国に着目して児童に伝え、児童の興味関心を高めていく活動を行う。

取組内容③

- ・にじいろ集会やにじいろ清掃での、学年ごとの役割を再確認する。高学年は低学年のお手本となる存在になるように声をかけ支援する。また、にじいろ清掃について、各掃除場所を見回って掃除の様子を確認する手立てを考えていく。

大阪市立北中道小学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標(小学校)</p> <p>① 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を30%以上にする。</p> <p>② 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より3ポイント向上させる。</p> <p>③ 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を72%以上にする。</p> <p>④ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を50%以上にする。</p> <p>学校の年度目標</p> <p>① 令和4年度末学校アンケート(児童対象)で「学習中に、自分もやればできると感じることもある」の項目で肯定的な回答の割合を80%以上にする。（昨年度 82%）</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>国語科・算数科を中心に習熟度別少人数指導、T.T等の指導方法を工夫して、学習内容の定着を目指し、また、自宅学習の習慣を確立できるような支援に取り組む。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校アンケート(児童対象)の「家で決まった時間、宿題(自主学習もふくむ)に取り組んでいる。」の項目について、肯定的な回答を90%以上にする。（昨年度 88%） 学校アンケート(児童対象)で「話し合う活動では、自分の考えを友だちに伝えることができる。」の項目について、肯定的な回答を85%以上にする。（89%） 学校アンケート(児童対象)で「外国語(英語)やモジュールの学習は好きだ」の項目について、肯定的な回答を80%以上にする。 	B
<p>取組内容②【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>げんきアップ週間の取り組みや外遊びの啓発、体育科学習の指導方法の工夫により、健康や運動への関心を高める。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校アンケート(保護者対象)で「お子さんは、家族で決めた起床・就寝の時刻を守ることができている」の項目について肯定的な回答を80%以上にする。（昨年度 79%） げんきアップ週間の振り返りで「ゲーム・動画・SNS・テレビなどの時間を守った」の項目について肯定的な回答を85%以上にする（5日間中、平均4.25日以上）（4.2日 84%） 学校アンケート(児童対象)で「一日一回以上、運動場に出て体を動かしている」の項目について、肯定的な回答を90%以上にする。（90%） 体育科実技研修を学期に1回以上設定し、指導力の向上を図る。 	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①

- ・宿題に関しては各学年に応じた量を準備し、毎日担任がチェックし、ほぼ全員が提出できている。未提出の児童については定着が図れていない児童と同様に、休み時間や放課後に取り組みよう個別指導を行っている。
- ・児童アンケート「話し合う活動では自分の考えを友だちに伝えることができる」の肯定的な回答は、84.6%と目標の85%を達成できていない。どの教科でも、発表の場や班での意見交流をする場を多く設けることで、たくさんの児童が参加できる場づくりを工夫してきた。
- ・児童アンケート「外国語（英語）やモジュールの学習は好きだ」の肯定的回答は81.5%と目標の80%を達成できているが、学年が上がるにつれてその割合が低くなっている。繰り返しの学習も多いため、気持ちが乗らない児童も見られる。

取組内容②

- ・保護者アンケート「お子さんは、家族で決めた起床・就寝の時刻を守ることができている」の肯定的回答は79.3%で、目標の80%を達成できていない。元気アップ週間「スクリーンタイム」の結果では達成率86%と目標を超えている。日々の学級指導に加え、保健だよりや元気アップ週間、発育測定に合わせて行われる保健指導で児童・保護者ともに啓発を図っている。
- ・児童アンケート「1日1回以上、運動場に出て体をうごかしている。」の肯定的回答は75.8%で目標の90%を達成できていない。各学年の実態に合わせ、みんな遊びなど行い、外遊びを積極的に行うように取り組んでいるが、学年が上がるにつれて外に出て体を動かす児童の割合が少なく、決まった児童に限られる傾向にある。

最終評価までの改善点

取組内容①

- ・宿題の提出率が100%になるように、宿題未提出が多い児童については「前日に声掛けをする」「継続して保護者の協力を求める」といった方法で自宅での学習が定着するように努める。併せて、自ら学ぶ習慣を身につけるように定期的に自主学習を宿題として出すことも一つの方法である。
- ・国語の学習を中心に、児童が自分の考えを友だちに伝えられることで、自信と喜びを体得できるように取り組んでいく。その方法として、少人数で話し合う場の設定や自分の意見をまずノートに書いてから発表するなど、学齢や個々の児童に合った支援を進めていく。
- ・高学年になるほど肯定的な割合が減っていることから、楽しい授業づくりを工夫していく。C-NETや専科担当と相談し、授業を改善することで、楽しく外国語学習に取り組めるようにする。

取組内容②

- ・「起床就寝の時刻」「スクリーンタイムの視聴時間」については、学級指導や保健指導、学校保健委員会や元気アップ週間で指導を継続し、併せて保護者への啓発も、個人懇談会や学級懇談会、学年だよりや保健だよりで引き続き進めていく。低学年の家庭の協力や意識の低下傾向がみられることから、入学説明会等で入学前から啓発していくようにする。
- ・各学年の実態に合わせ、みんな遊びの内容を検討し、引き続きみんな遊びなど、担任が声掛けしたり係活動として設定したりして、運動場に出る機会が増えるように取り組む。今年度は暑い日や雨天も多かったので輪番で講堂使用できるようにしても良いと思う。

大阪市立北中道小学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】 全市共通目標(小学校) ① 令和4年度末の校内調査の「日々の学校活動の中で学習者用端末を活用している」の項目について、肯定的に答える児童の割合を90%以上にする。 ② ゆとりの日の設定を、月2回以上設定する。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】 学習者用端末を活用し、個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた取組を推進する。	B
指標 ・学校アンケート(児童対象)の「進んでタブレットを使った学習に取り組んでいる」の項目について、肯定的な回答の割合を80%以上にする。(昨年度91%)	
取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 教職員間の情報交換・コミュニケーションの充実を図り、協働的に業務に取り組める環境づくりを推進する。	B
指標 ・ゆとりの日に18時までに退勤する教職員を90%以上にする。 ・教員の時間外勤務時間の1か月平均を30時間以下にする。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>取組内容①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前期児童アンケート「進んでタブレットを使った学習に取り組んでいる。」の肯定的回答は83.7%で目標値に達した。 ・各学年の実態や学習内容に合わせ、タブレットを活用して調べ学習やデジタルドリルに取り組むことができている。 <p>取組内容②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報交換やコミュニケーションは積極的に行えていて、協働的に業務に取り組める環境づくりもできている。ゆとりの日の設定により定時近くに退勤できる職員も多くなった。しかし業務量の偏りもあり、中には仕方なく業務を持ち帰っている職員もいる。
最終評価までの改善点
<p>取組内容①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き各学年の実態に合わせて計画的にタブレットの活用を進めていく。ICT支援員の方が来られている日を十分に活用し、教員も児童と共に操作方法を理解し、指導できるように努めていく。 <p>取組内容②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員の時間外勤務時間を縮小するための改善点として以下2点挙げる。①「作成したデータを次年度以降にも十分活用できるように共有ファイルにわかりやすく保存し、引継ぎできるようにする」②「次年度にむけて学校行事の精選や時期の再検討をする」